

# ひまわりからの

## メッセージ

24号

2013. 3. 15.

西濃園域  
発達障がいの支援センター  
ひまわり

発行人：中野にみ子

## 春の幸せ色

見つけた!!



今年は雪が少なかったのに、寒い日が続き、水仙もクリスマスローズも花芽がなかなか上がってきませんでした。このところのあたなかやで一斉に花が咲き始めました。今朝は、庭隅にニオイスミレを見つけ、思わず一花摘んで香りを楽しみました。

春をいっぱい感じた今朝は、何となく心浮き立つ思いで、名古屋での会議を終えて高島屋に立ち寄りしました。

婦人服売場を通りかかると、「イヤ!! チーちゃんが座りたいの!!」と子どもの泣く声がします。見ると、父親と三人の兄妹がいて、泣いているのは三歳半位の女の子でした。お母さんは試着室にでも入っているのでしょう。待っている

間に椅子に座ることもめたようでした。お父さんは、「チーちゃんは今まで座っていなかったでは?、皆が先に座っているんだから、チーちゃんももう少し我慢しなさい!!」と、たしなめていました。小さい子が駄々をこねると、すぐに上の子に「お兄ちゃん、泣いているから代わってやりなさい」と下の子の要求を全て通してしまふ親さんの姿を見ることが多いので、そのお父さんの毅然とした態度に好感がもてました。そして、その方は決して声を荒げることはありませんでした。これもなかなかできないことです。

子どもが泣き叫んだり、疳高い声を出すと、つい大人の方も気持ちが悪くたかぶって「どうして泣くの?!!」と疳高い声で叱ってしまうので、子どももよけいに気持ち悪くたかぶらせてしまうということは、よくあることです。パニックの時もそうですが、そういう時には声のトーンをさ落とすことも大切だと思えます。あえて低い声にするのです。

子どもと同じハイテンションにならないこと、大人として私たちもお母さんたちも心がけ、「うは、しません!!」「それは聞けません!!」と言うことも必要でしょう。

春の一日、通りすがりに垣間見た親子の姿に、春の幸せ色を見つけた気がしました。

子どもは何に困っているの？

— 視覚認知の弱さのある子への

アフロローター



あつという間に一年が過ぎようとしています。三月といえば、一年の集大成、まとめの季節ですが、私はちょっと暗い気持ちでいます。というのも、最近検査をしていると、個人内差の大きい子が余りにも多いからです。その子たちに、私たちはどんな手だてをしていけばいいのでしょうか？ お母さん方に話しながら、不十分だという気がしています。

最近、ビジョントレーニングの本を読みました。

努力しても努力しても成果の上がらない子どもたちは、どうしても「努力が足りない」「怠けている」と思われがちです。でも、その子たちは、もしかしたら視覚機能に弱さがあり、そのために困っている子どもたちではないのか……と考えてみようというのです。

個人内差が測れるウェクスラー検査(WISC)

ウェイス

を実施してみると、言語性検査は標準値以上なのに、動作性検査でひどく落ち込む子がいます。目で見るということに弱さがあったり、ボディイメージが十分に育っていないかったりして、頭では分かっているのに、上手くできないというギャップに苦しんでいる子どももいます。

視覚機能は視力とイコールではありませんが、ともすると、同じだと考えがちです。眼科では左右の視力をバラバラに測りますが、両眼視を考慮してくれることは少ないように思います。視覚機能を調べてくれるのは、「オフトメトリスト」という人たちですが、米国とちがって日本では数がまだまだ少ないと言われています。

目の機能と一口に言っても実は様々で、子どもたちに遠視はないか、近視や乱視はないか、目の病気はないかといったことを調べ、検査した上で視覚機能のトレーニングを始めることが大切だと考えられます。まず眼科でそれらの検査を受けた上で、とりあえず、視覚機能のチェックをしてみよう。

# チェックリスト

| 種類   | No. | 質問                                      | 回答 |
|------|-----|-----------------------------------------|----|
| 読む   | 1.  | 音読で行きとばす。同じところを何度も読む。読んでいる場所がわからなくなる。   |    |
|      | 2.  | 読むときに非常に長く時間がかかる                        |    |
|      | 3.  | 読むときに頭や体を大きく動かす                         |    |
|      | 4.  | 計算はできるが文章題になると理解が難しい。答えが出せないことがある。      |    |
|      | 5.  | 読んだり書いたりする時に頭を本やノートに非常に近づける。            |    |
| 見る   | 6.  | 近くを見る時に頭を斜めにしてみようとする。片目をおおて見る。          |    |
|      | 7.  | しきりにまはたきをする。眼をこする。眼を細めて見ようとする。          |    |
|      | 8.  | 作業中や話を聞くときなど集中して見るのが苦手。たえず視線を動かしている。    |    |
|      | 9.  | 近くを見る作業を嫌がったり。さけたりすることがある。              |    |
|      | 10. | 両眼が外側によったり内側によったりして。同じ方向を見ていないことがある。    |    |
|      | 11. | 黒板に書かれた文章をノートに書き写すのに時間がかかる。             |    |
| 書く   | 12. | 漢字をなかなか覚えられない。鏡文字など書きまちがいが多い。似た字をまちがえる。 |    |
|      | 13. | ひし形など書くことが苦手な図形がある。図形問題が苦手              |    |
| 見て動く | 14. | 文字を書くとき、マスからはみ出す。読めない位、形の整わない文字を書く。     |    |
|      | 15. | 筆算でけたをそろえて書き、計算するのが難しい。位がずれることがある。      |    |
|      | 16. | 小学2年生以上で、靴をはくときなどに左右をまちがえることがある。        |    |
|      | 17. | 球技が苦手。投げられたボールをうまく受け取るのが難しい。            |    |
|      | 18. | はさみを使って直線上や曲線上をうまく切ることができない。不器用。        |    |
|      | 19. | ダンスや体操でまねをして体を動かすことが苦手。                 |    |
|      | 20. | 方向認識が悪く、よく道に迷う。                         |    |

講談社版  
『発達障害の子のビジョントレーニング』より

※ どの項目にチェックが多いのか調べてみましょう。そして、どの項目にチェックがたくさんついたのかを調べて、どこに注目してトレーニングするといいいのか、大まかな目安を知っておきましょう。

私たちは、目で物を見て、様々なことを記憶したり、イメージをふくらませたり、手を使って物を操作したりしています。単に目で見ただけでは、それがどういふ物なのかを知ることはできません。耳も同じですが、私たちは自分の体にある感覚受容器（耳や目など）を通して情報や刺激を入力します。そしてその情報を脳に送ります。受け取った脳は、その情報を上手く処理してくれているので私たちの日々の生活は成り立っているわけです。つまり入力と、情報処理、出力の関係がうまくいくといいわけですが、読んだり書いたり、見て動くといったところに困り感をかかえている子どもたちは、そのルートのどこかに弱さがあるのではないかと考えられるわけです。

### 155、65にが多い場合

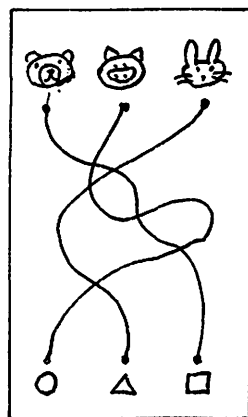
文章を読むというときには、眼球運動が大きくかわっています。文字をたどったり追ったりするための眼球運動の支援が必要ということになります。見ることも同じです。

眼球運動にはどんなものがあるでしょう？、まず固視といって、一つの物をじっと見ること、十秒間じっと見続けられ

るかどうかが確かめてみましょう。次に両眼視です。私たちの目は左右にはなれているので、微妙にずれが生じます。それをコントロールするのが両眼視です。階段の上り下りのときに困ったり、思った所に手がのばせないなど、距離感がうまくとれない場合には、両眼視がうまくいっていないと考えられます。また、ゆっくりした眼球の動きやすばやい眼球の動きも大切です。

眼球運動を育てる遊びとしては、もぐら叩きや、お手玉あそび、ボールを机の上で動かして合うあそびなどが考えられますね。ぐねぐねした線をなぞったり、線と線の間をたどって書くというようなワークシートも作ってみるといいでしょう。文章を読むには、すばやい眼球の動きも必要になります。子どもが本読みが苦手だと思つと、努力が足りないのだと思つて、何度もうくり返させることが多いと思います。眼球のすばやい動きができない場合には、文章を読ませようとせず、「あを見つめようとか、「う」を見つめようとか絵本の中で文字みつけなどの遊びをしてみましょう。お母さんや友だちと遊びとしてやってみるのもいいですね。目だけを動かして物を見ることの苦手な子は、体や頭を

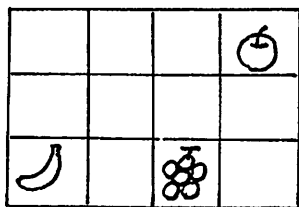
動かすことで見ていることも多いようです。頭を動かさずに視線だけで何と何がつながっているかを見つける遊び(四)なども、色々と応用できるのではないでしょうか。数字に



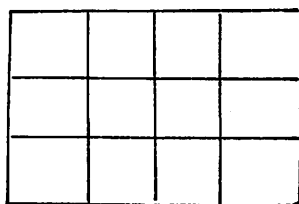
てみたり、文字にしてみたり、曲線を直線にしてみることできます。上下ではなく、左右の線にしてもいいですね。

### 12〜13にチェックがつく場合

視空間認知の未熟さが考えられます。見たものを認識し記憶していく力が弱いことが考えられるので、例えばプロップを使って、同じ形をさがしたり、組み合わせあった形と同じ物を作ったりするのも一つです。また、左の図のように



↓  
どこにあったかな?



どの位置に何があったかを当てる遊びなども楽しくやれる遊びでしょう。

### 14〜20にチェックがつく場合

主に情報処理や出入力に未発達な部分があると考えられます。自分の体のボディイメージができていないために、体をどのように動かしたらいいのかわからないのでしょう。

左右、上下なども十分わかっていない場合、大人のまねをして手足を動かしてみる遊びから始めてみましょう。体かづくりではないので、自分の手足や体がどのように動くのか、意識づけていくことが大切です。

お皿とペグを用意して、ペグを「右」「左」「上」「下」など指示に従って入れ分けるとか、「シン」を両手両足につけて、「右手あげて」「左手あげて」など旗上げあそびのように遊んでみるのもいいかもしれません。

ボディイメージは、感覚統合ともかわって、子どもたちの発達に必要な基盤とも言えるものです。体のバランスが崩れやすい、よく物にぶつかる、模倣が苦手など、もう一度子どもの体の動きについても目を配っていきましょう。



# 支援の引きつぎは

終わりましたか？



保育園や幼稚園から小学校へ、また小学校から中学校へ、サポートブックやスマイルブックをもっていき、子の保護者をまじえての引きつぎ会は終わりましたか？

私は、大垣の引きつぎ会に同席させていただき、ましたが、数年前とは少しずつ変わってきていることを感じています。園からも「う」が出来ます。「う」ができるようになりました」という報告だけでなく、「困っている時にはうすると助かります」、「気持ちのコントロールのために園ではうのような関わり方をしてくれました」というような具体的な手だてが知らされたり、学校側もどのような様な受け入れをしていくといいのかと学校側から提案して下さったりしました。子どもたちや保護者の立場に立った取りくみが進んできているというところで、まだ、学校差や園差

が大きいとも思いました。

「特別支援教育」とは何かということも、一人一人が考えていかないと……とも思いました。

お母さん方にも、少し辛口の発言もさせていただきましたが、家庭でできること、しなければならぬことと、学校にお願いすることと、お母さんたちも再度見直していただくことができたのではないかと思います。お母さん方の思いはよくわかりますが、勉強ができることと、社会性の発達は同じではないということ、お子さんの強みと課題を理解した上で次のステップへ進んでほしいと思います。

学校はスマイルブックで引きついだお子さんの個別の指導計画、教育支援計画を保護者と共に作っていく学校であっていただきたいと願っています。次年度もセンターをぜひ活用下さい。

お知らせ

二十五年四度のセンター親の会は  
四月九日(火) 九時三十分です。